

提言

経済界のリーダーたちへ あるべき日本の指針を政府と合議せよ

世界中が新型コロナウイルスの渦中にあるいま、第2波とも思える、連日300～400人の感染者が出ています。

日本政府の対応もさる事ながら、我が国経済界のリーダーたちの発言にひと言申し上げたい。

経団連の中西宏明会長、日本商工会議所の三村明夫会頭、関西経済連合会の松本正義会長、日本経済界の本丸とも言える経済同友会の櫻田謙悟代表幹事…あなたたちの立ち位置は経済優先なのか、感染防止なのかをしっかりと考えていただきたい。

もちろん会社という組織も大切ですが、人命に関わる感染防止も大切です。

アクセルとブレーキは同時に踏むことはできません。まず人の命を守ることを最優先し、尾身茂新型コロナウイルス感染症対策専門家会議副座長がおっしゃった通り、あと2ヶ月、9月まで自粛を続けていれば、この急激な第2波の到来はなかったのではないのでしょうか。

そこで経済界のリーダーの皆さんに申し上げたいのは、財政諮問委員会という安倍総理を囲む会があります。経済産業省では賢人会、大企業・中小企業の懇談会も行われています。そうしたいくつもの会合よりも、今求められているのは実行力のある決断ではないのでしょうか。

今最も望まれているのはワクチンの開発ですが、それが叶うまでは我慢に我慢を重ねなければならないのです。

旅行も、観光も、もちろん大切ですが、人の命が脅かされてはGo Toキャンペーンで旅に出る人もいなくなるでしょう。

日本モデルとよく言われますが、辛抱強く我慢強い日本人の美德を今こそ発揮することこそが日本のとるべき道ではないのでしょうか。阪神淡路大震災の時も、東日本大震災の時も、何時間も並んでたった1つ配られたおにぎりに心からのお礼が言える日本人は素晴らしい忍耐力のある国民です。

この国民から、政府は素晴らしい対応をしてくれたと言われるような指針と施策を日本の経済界のリーダーたちが政府に提案すべき時なのです。

秋、あるいは年末になってこの新型コロナウイルスの脅威が遠のけば、経済の再生も進むと思います。

安倍総理、頑張ってください。

本誌主幹 大申 吉一